

高林陽一監督、見てくれていますか

東 義久 (小説家)

今回、ぼくの作品を遠藤久仁子さんが主宰する「二人だけの劇場セザンヌ」で取りあげてもらったことになった。ぼくと遠藤さんは実は自主映画の巨匠といわれる高林陽一監督をとおしての知り合いである。女優遠藤さんは何本も高林監督の映画作品に主演として出演されていた。一方、ぼくの「夜が明けたら」という作品を、監督の映画人生最後の作品にしたいと申し出があり、脚本も出来、楽しみにしていたら、監督が急逝され映画化はストップしたままになった。もちろんぼくの気落ちといえは大きかった。監督の兄弟分ともいえる大林宜彦監督も残念だったけどいつかまたぼくの出番が来ると慰めてもらった。その大林監督も亡くなった。そんな折り、遠藤久仁子さんからぼくの「童話屋でござる」を中心とした作品を取りあげたいとの連絡が入った。これまで朗読家、落語家の方たちに取り上げてもらったぼくの童話作品。けれど劇団が採用するのは初めて。どんな舞台になるか楽しみである。高林陽一監督はぼくと遠藤久仁子さんのセッションをどんな顔で見ているか楽しみである。



ごあいさつ

遠藤久仁子

二人だけの劇場セザンヌ 40周年記念公演、沢山の皆様にお守りいただき無事に公演千秋楽を迎えさせていただきましたこと、心より深く御礼申し上げます。過去5年間に渡りドキュメント作品「その瞳の奥に輝く生命の奇跡」(ベトちゃんドクちゃんと共に歩んだ人々)・「火を産んだ母たち」に取り組みで参りましたが、今回は41周年新たな取り組みとして、京の作家 東義久氏の作品を取り上げ、久しぶりに京都の物語の世界を楽しんでいただきたく考えております。皆様方のご来場を心より楽しみにお待ち申し上げます。また今回公演に関しまして快く作品提供してくださいました東義久先生、作曲 宮生晋悟氏に心より御礼申し上げます。



天と私と友に

宮生晋悟 (音楽家)

日本では物語というが、中国では春秋という。孔子は春秋を麒麟を獲まえたで筆を置いた。浪漫派のE.T.A. ホフマンは作家、作曲家、音楽評論家、画家、法律家だったが、シューマンや浪漫派の作曲家に影響を与えた。オッフェンバッハは無数の喜歌劇を作ったが、晩年に一つは正歌劇を作りたいと思って台本に選んだのが、ホフマンの幻想的な物語である。こうして作られたのが、彼の最後の作品、ホフマン物語である。千年の都、京の町には沢山の物語がある。これを紡いで絵巻物を作ってはどうだろうか。一条戻橋も三条大橋も四条河原も五条大橋も歴史を持つ。セザンヌのアトリエの前の街道も袈裟と盛遠も歩いただろう。森の石松も歩いただろう。演劇は現実の空間の立体彫刻、音楽は観念の世界の立体彫刻で古来、人間の営みの核を成してきた。空蟬という文学用語は量子の時代には物理学の用語になるだろうが、そういう観念は舞台人や音楽家には直感的にわかる。いざ物語ましよう。

Staff

音楽：宮生晋伍(宮原豊干) / 照明：片浦正和 / 照明補：遠藤博圭 / 舞台監督：劇団員各人
スタッフ：坪山正文、中武題、塩見順一、アンディ菅野 / チラシ・パンフデザイン：Hiroka.E

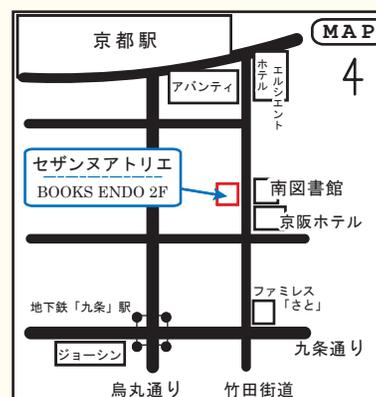
【お問い合わせ】

二人だけの劇場 セザンヌ

〒601-8017 京都市南区東九条北烏丸町 33 番地 Books ENDO 2F
Tel; 075-205-1733 / 090-3865-0533
Fax; 075-672-3426

cezanne1983@leto.eonet.ne.jp , cezanne1983@ybb.ne.jp

<http://www.cezanne1983.com/>



★会場場所についてのmap検索についてのご注意とお願い

劇団名「二人だけの劇場セザンヌ」とmap検索致しますと事務所が表示されますので「遠藤書店2階」と検索して下さい、会場場所:セザンヌアトリエ(遠藤書店)が表示されます。どうぞよろしくお願いたします。